◇◇◇　民族主義　　　2016年8月キーウにOUN-UPA（ウクライナ民族主義者組織-ウクライナ蜂起軍）指導者の名を冠した<u>ステパン・バンデラ</u>通りが誕生

反ロシアへ歴史の書き換えが急速に進むウクライナ

撤去されるレーニン像、赤色も徹底して忌避　2016.8.23　藤森信吉

- 「ユーロ･マイダン革命」後、ウクライナでは非ロシアの一環として歴史の書き直しが進んでいる。
- しかしながら過度のウクライナ民族主義の強調は、国内分裂の火種となるばかりでなく、隣国との係争問題に発展しかねない。ポーランドは、大戦期におけるバンデラの組織の行為を「ポーランド人に対する虐殺」認定し、不快感を露わにしている。

- それまでウクライナ西部でのみ支持されてきたOUN-UPA（ウクライナ民族主義者組織-ウクライナ蜂起軍）の復権も進められた。OUN-UPAは、今日のウクライナ西部において、ナチス、後にソ連の支配に対し武力抵抗運動を行ったことで知られている。
- そのため、ソ連の公式歴史において、OUN-UPAは「テロリスト」あるいは初期にナチスと協力していたことから「ナチスの手先」とのレッテルを貼られてきた。

- 一方、ポーランドにおいてもOUN-UPAは蛇蝎のごとく嫌われてきた。OUN-UPAはナチス支配の後退期に将来の独立を見越して民族浄化を行ったからである。特に1943年7月からの浄化作戦により、ヴォリン地方では数万人規模のポーランド市民が犠牲となったと言われている。

民族主義の扱いに揺れるウクライナ

- ウクライナは複雑な領土編成の歴史を持っており、それぞれの地域が独自の歴史的経験に基づくウクライナ民族観を維持してきた。
- そのため、歴代ウクライナ政権は、国内分裂を招きかねない分野、例えば言語や宗教、そして歴史については国家による介入を避け曖昧な状態にしてきた。

- 独立直後こそウクライナ民族主義（本稿では便宜上、ガリツィア地方のウクライナ観に基づくものを指す）に振れた。　初代：クラフチュク（1991～1994）

- しかし、第2代大統領クチマ（1994-2004）の時代になると、バランスが図られていく。
- 彼の選挙公約「ロシア語の第2国家語化」はあっさり反故にされ、独立後に分派したウクライナ正教キエフ主教座からの国教化要求も無視されてきた。歴史問題についてもソ連時代の歴史解釈がほぼ踏襲されてきた。

- こうした状況は、ユーシチェンコが2005年に大統領に就任すると変化し始める。その一例として、ソ連時代の農業集団化に伴う大飢饉を「ウクライナ民族に対する虐殺」と認定した議会決議を挙げることができる。

2022.1.1たいまつ行進（1909.1.1生。1959ミュンヘンでKGBにより暗殺）

ナチスのたいまつ行進（ベルリン。背景はブランデンブルク門）

ナチスを彷彿させるキエフの「たいまつ行進」

- ウクライナ西部のガリツィア地方に基盤を持つ政党「スボボダ」は、バンデラの思想と運動形態を継承している。バンデラ主義者と呼ばれる人々が主張するウクライナ民族至上主義、反ユダヤ主義は、国際基準でネオナチに分類される。今回「スボボダ」をはじめとするバンデラ主義者が、ナチスが頻繁に行った「たいまつ行進」を行ったのも、自らがネオナチであることを誇示するためである。

- この動きに対し、ロシアだけでなくチェコも反発している。
  ＜チェコのゼマン大統領が4日、ラジオ局Frekvence1の放送で、ウクライナの首都キエフで行われた民族主義者たちの「たいまつ行進」をEUが非難しないことは、EUが何か間違っていることを物語っているとの考えを表した。タス通信が伝えた。

佐藤優直伝「インテリジェンスの教室」
vol 052（2015年1月7日配信）より

アゾフ連隊（大隊）とは

エンブレム

2014年ウクライナでの親ロシア派騒乱で親ロシア派に対抗するため発足。ゼレンスキー大統領の政治支援を行っているウクライナ・オルガリヒのユダヤ人、イーホル・コロモイスキーもアゾフ連隊にも資金提供したとみられている。同年5月の創設当初は義勇兵部隊であったものの、ドンバス戦争で対親露派・分離主義者の戦闘で名をあげ、ドンバス危機以降の11月からは国家警備隊として機能するようになり、2014年11月11日のウクライナ内務大臣アルセン・アバコフの署名によってアゾフ大隊は正式にウクライナ国家親衛隊に編入された。（ウィキペディアより）

アゾフ連隊

アゾフ連隊

ヴォルフスアンゲル
（ナチスシンボル）

アゾフ連隊のシンボル

2014年

2015年

ホロドモール（大飢饉）～　独立運動　～　アゾフ大隊

- 1922年にはスターリンのソ連に一共和国として組み込まれ、第二次大戦前には農民が飢餓状態になっても穀物を輸出にまわすというスターリン政策によって大飢饉が発生、数百万人が餓死した。
- これも、土地の国有化など共産主義に反対する農民の数を調整するための「人工的な大飢饉」だったとして、米国などは虐殺だとしている。
- こうした状況下で第二次大戦が勃発。**ソ連軍を電撃作戦で蹴散らし侵攻してきたナチス・ドイツの部隊は、ウクライナの少なくない人々に「ソ連を駆逐した解放者」として迎えられる**ことになったとされる。
- 実際にはナチスもウクライナの独立を認めず、むしろ戦争で国土が荒廃しただけだった。しかし**当時は独立運動家らがナチスのSSに入隊するなど、反ソ連感情は消えることがなかった。武力でソ連を撃退したナチスのイメージは「アゾフ大隊」の構成員にも強く影響しているのは間違いない**。
- **ユダヤ人虐殺の中心となった内務省SSと、前線でソ連軍と戦った武装SSとは別組織だったことに加え、ヴォルフス・アンゲル（狼の罠）の印章は武装SSだけでなく、国防軍の部隊も複数用いていたこともあり、アゾフ大隊が気軽に部隊章などに取り入れた一因とみられている。**

モンゴル帝国の最盛期に侵攻した範囲（13世紀）

第二次大戦中のナチス及び枢軸国のソ連侵攻範囲

「ノヴォロシア人民共和国連邦」構想　・・・凍結状態

ウィキペディアより

- 2014年5月12日、ウクライナ東部のドンバス地区でウクライナ中央政府から独立宣言をしたドネツク人民共和国とルガンスク人民共和国は、5月24日に結成の文章に調印した。また今後、ウクライナ6州を連邦に加入させる意向を示し、親欧米派のウクライナ中央政府と紛争になっている。
- しかし2015年1月1日、新ロシアプロジェクトが保留になったことを発表し、5月18日にはドネツク人民共和国外相のアレクサンドル・コフマン及びノヴォロシア議会議長オレグ・ツァーロフがプロジェクトの凍結と政治構造の廃止を正式に発表した。
- 同年2月11日に調印されたウクライナ東部紛争の停戦協定「ミンスク2」においてノヴォロシアの創設が規定されていないという理由によるものであった

「ノヴォロシア人民共和国連邦」･･･凍結状態
（東部8州で、クリミアは除外されている）

ボフダン・フメリニツキー （1595年～1657年） もう一人の英雄

- ウクライナのコサックの指導者ボフダン・フメリニツキーは「民族の解放者」としてウクライナ国民から称えられてきた。
- 彼はポーランドとの戦いに勝利してウクライナを解放した。
- 彼はユダヤ民族からは「ヒトラーに次ぐ大悪人」といわれ、「モンスター」と忌み嫌われている。
- フメリニツキーは当時ポーランド人の下で地主としてウクライナ人の農奴を扱き使っていたユダヤ人を大虐殺したからだ。

（蛇足）ボフダン・フメリニツキー山（1587m）
日本名：散布（ちりっぷ）山

択捉島
（えとろふとう）
オホーツク海
太平洋
カモイワッカ岬
ラッキベツ岬
蘂取
神威岳
茂世路岳
大岬
散布山
▲1582m
ナヨカ湾
紗那
別飛
野斗呂岬
留別湾
留別
年萌湖
小田萌山
単冠湾
西単冠山
▲1629m
ポロノツ鼻
阿登佐岳
内保湾
うるもんべつ湖
ベルタルベ崎
ベルタルベ山
メッカリ崎
N
0
100km

ウクライナの主要な政党

	'19 最高会議選挙比例区得票率(7/21)	'19 大統領選挙得票率(3/31)	'14 大統領選挙得票率
公僕党	43.16%	(ゼレンシキー)30.54%	–
野党生活党	13.05%	(ボイコ)11.67%	0.19%
祖国党	8.18%	(ティモシェンコ)13.40%	12.81%
欧州連帯党	8.10%	(ポロシェンコ)15.95%	54.70%
ホロス(声)党	5.82%	–	–

現在のウクライナ国歌

ウクライナの栄光も自由もいまだ滅びず、
若き兄弟たちよ、我らに運命はいまだ微笑むだろう。
我らが敵は日の前の露のごとく亡びるだろう。
兄弟たちよ、我らは我らの地を治めよう。

我らは自由のために魂と身体を捧げ、
兄弟たちよ、我らがコサックの氏族であることを示そう。

ウクライナ国歌に込められた歴史と覚悟

2022/4/2　川西　健士郎

- 最後の歌詞には、壮絶な民族の覚悟が込められている。コサックは中世ウクライナの自治を守る戦士。中澤氏は「義のためにはいかなる困難も恐れず、身も心もささげるというコサックの心性は日本の武士道にも通じる」と話す。
- 東部や南部で露軍の攻撃が続く中、命の危険にさらされながらも故郷を守ろうと現地にとどまる市民は多い。中澤氏は「大陸の領土観は電車の席にたとえられる。席を立ったら次に来た人のものになる」といい、「ここで戦わなければ、350年にわたってロシアにこき使われてきた時代に戻ってしまうという恐怖がある」と指摘する。

１９７８年から1991年まで歌われた ウクライナ国歌の歌詞

- **万歳、美しく強きウクライナよ,
汝はソビエト連邦の中で喜びを知った。
<u>平等の中の平等,自由の中の自由</u>で,
自由の太陽の下、花開くのだ。**
- **栄光あれ、ソビエト連邦よ栄光あれ!
永遠なる祖国よ栄光あれ!
永遠なれ,ソビエトの国ウクライナよ,
兄弟たる国民の統一された祖国の中で!**
- **人民の運命の為の闘争の中でいつも
<u>ロシア人は我らが兄弟であり友であった</u>。
我らをレーニンが勝利の戦役へと導く,
十月の旗の輝く頂のもとで。**
- **我らは祖国の偉業を称え
不滅の思想の真実を確信する。
偉大なる未来、共産世界の中で
我らがレーニンの党が賢く導くのだ。　　　　以下略**

（参考）ポーランド国歌

- ポーランドはまだ屈服していない
  我らの命が続く限り
  どんな外国の勢力が強奪しようとも
  我らはこの手のサーベルで奪い返す

- 進め、進め、ドンブロフスキー将軍
  イタリアからポーランドへ
  指揮に我らは従い、
  そして皆が団結するだろう

- 進め、進め、ドンブロフスキー将軍
  イタリアからポーランドへ
  指揮に我らは従い
  そして皆が団結するだろう

・ヴィスワ川とヴァルタ川を横切って
私たちはポーランド人になるだろう
私たちはボナパルトによって
勝利への道を示された

・チャルニェツキがポズナニの町を
スウェーデン人と戦って回復するから
私たちの祖国を鎖から自由にするために
私たちは海路で帰るだろう

ヤン・ドンブロフスキー（1755～1818）
ナポレオン軍の下で、ロシアと戦う
国民的英雄

ウクライナの民族抗争と民際運動体 ①

中村 尚司（ひさし）　PARCIC理事
アジア経済研究所勤務を経て龍谷大学経済学部教授

- 日本政府や国会によれば、2022年2月以降にウクライナで進行している事態は、ロシア軍による侵略戦争である。「ウクライナの主権および領土の一体性を侵害し、武力による一方的な現状変更は断じて認められない。ロシア軍による侵略を最も強い言葉で非難する」という国会決議（3/1）は、ほとんどすべての会派の賛同を得た。議会史上、画期的な決議である。
- しかしながら、ウクライナの問題の根本は、日本の国会が誤解するような国家間の戦争ではなく、スラブ民族間の紛争である。
- ロシアが戦争ではなく、特別軍事作戦と呼んでいるのは、民族問題を解決するための二つの「ミンスク合意」が、前提になるからである。
- 日本民族はなぜか、スラブ民族に親近感を持つ。・・・幕末の薩摩藩士が志願兵としてクリミヤ戦争に参加して、帝国陸軍の徴兵制を補完することになった。・・・民族的な親近感は、人為的な構築物である国家を超えがちである。

続き②

- 戦争や民族抗争には、いかなる場合にも、争いの当事者が存在する。外部の第三者の目から見れば、ゼレンスキーだけが正しいわけではない。プーチンだけが正しいとも言えない。紛争解決に資するためには、どこかで妥協して、停戦ラインを定めることになろう。国際的な停戦監視団も必要であろう。国家主義者にとっても、民族主義者にとっても難しい課題である。
- 第二次世界大戦後のさまざまな国際紛争と違って、今回はアメリカ合州国の特異な役割がある。「世界の憲兵」として国際紛争に介入してきた過去は、朝鮮戦争、ベトナム戦争、イラク戦争、アフガン戦争など、アメリカ兵の直接的な参戦が基軸であった。しかし、現代のウクライナにおいては、米軍兵が姿を見せることはない。その代り直接的な交戦はウクライナ兵に任せ、武器弾薬などの軍事援助と金融・経済制裁が代理戦争の主流となった。とはいえ最大の利益を得たのは、言うまでもなく米国である。武器輸出ばかりでなく、原油、液化天然ガス、小麦や大豆などの穀物輸出でも世界市場を独占している。ウクライナの軍事作戦で誰が最も利益を得たかを考えると、情報作戦の専門家であるプーチンではなく、朴訥な顔をしているバイデンの一人勝ちが明白である。

続き③

- 国家主義に比べると、民族主義の方が戦闘から退却する道を選び易い。とりわけロシアにとってもウクライナにとっても、民族自決権の理念は親和的である。

- オデッサにおける戦艦ポチョムキンの反乱は、ウクライナとロシアの民族自決権を掲げた革命の出発点である。レーニンたちがソ連邦を結成した時、構成民族の分離独立権は第一義的な要件でもあった。レーニンから権力を受け継いだスターリンは、革命政府における民族問題担当の人民委員であった。

- 第２次世界大戦後に結成された国際連合でも、民族自決権はその憲章第一条に定められている。これ以上多くの人命を犠牲にしないために、当面考えうる妥当な解決案は、東部州とクリミヤ半島のロシア系住民に対して、一定の自治権を容認するウクライナ連邦共和国の制度ではなかろうか。この民族自決権を基礎に、和平交渉を進める道が最も手近な解決案と思われる。